

桜縁

特集●現代の「農業」を考える

フロントランナー●チームで戦うと相乗効果が生まれます
日本大学豊山高校 **上野 広治**

特別寄稿●長野県研修員として中国で学ぶ
元ニッポン放送アナウンサー **小口 絵理子**

連載●袖すりあうも
うちなー料理「首里いろは庭」
山形県／ホテルビューくろだ

連載●動物・ペットQ&A **高橋犬猫病院**

連載●われら日大ファミリー **神川 弘さん一家**

支部・部会紹介／キャンパス・グラフ／校友会ニュース



第34回JOMO童話賞に『午後十時の訪問販売』で入賞した鎌形夏希さん(医学部在学)

CONTENTS

特集●

現代の「農業」を考える3

滝沢 元一郎、石川 秀夫、若月 一成、大久保 晃
昆野 安志 先生、川西 啓文 先生

フロントランナー

上野 広治先生(日本大学豊山高校)



チームで戦うと
相乗効果が生まれます8



特別寄稿

小口 絵理子(元ニッポン放送アナウンサー)
長野県研修員として中国で学ぶ 10

連載・袖すりあうも



お店紹介
うちな一料理「首里いろは庭」.....12



お宿紹介
山形県/ホテルビューくろだ 13

連載●動物・ペットQ&A~人とペットにやさしい病院紹介~
高橋犬猫病院(埼玉県岩槻市) 14

連載●われら日大ファミリー
神川 弘さん一家 15

支部・部会紹介(経済学部校友会、千葉県支部) ... 16

イベント情報 18

キャンパス・グラフ 20

校友会ニュース 21

お知らせ・掲示板 22

「桜縁」の由来

日本大学(桜)と校友の皆さんとの縁を深めるだけでなく、校友の皆さん同士の縁も大切にしたいコミュニケーション誌を目指して『桜縁』(おうえん)と名付けました。また、校友の皆さんに母校の教育・研究活動や後輩達の学術・文化・スポーツ活動を“おうえん”(応援)してもらいたいという意味も込められています。

本学は総合大学とはいえ、キャンパスも離れているし、なかなか相互交流が取りにくかったのですが、最近、総合学術情報センターの通信衛星を使った遠隔授業や、単位互換制度もでき、学部間交流が深まりつつあります。校友の皆さんも卒業してから学部間交流ができるように、この会報は、年齢層はできるだけ幅広く、学部・学科の枠を超えて一人でも多くの校友の皆さんを紹介していきたいと思っています。

IT(情報技術)が発達し、インターネットのホームページや電子メールでの情報伝達が増えていますが、この会報『桜縁』を持って、紹介する校友のお店などをふらっと訪ねて、自分も日大の卒業生だと話しかけてみるのも良いのではないのでしょうか。きっと日本大学の話で盛り上がり、新しい縁が生まれるはず。この会報をどんどん活用して、桜の縁が広がっていくことを願っています。



表紙の写真

学生の学術・研究・スポーツ活動を応援する目的で、本誌の表紙を学生のために広く開放し、活動発表の場にしたと考えてました。

第34回JOMO童話賞に「午後十時の訪問販売」で入賞した鎌形夏希さん(医学部在学)

小さい時から童話だけでなくいろいろな本を読むのが好きだった彼女。高校時代に童話を書きはじめ、2度目の応募でJOMO童話賞に入賞を果たした。子供の頃、大病で長期入院したことがあり、その時の主治医の先生がとても良くしてくれたので、医者になることを決めた。「自分も患者さんに良い先生と思われるようなドクターを目指したい。でも...これからは童話だけでなく小説にも挑戦したいなあ」と、ドクターの卵は勉強に作家活動にと大忙しだ。

現代の「農業」を考える



日本の食料自給率(カロリーベース)は平成14年時点で40%。先進国の中でも最低レベルにあり、平成22年には38%まで落ち込むと予測されている。BSE問題を端緒として食の安全性に注目が集まり、法令も整備されつつあるが、農業地域では高齢化が加速化し、後継者問題は深刻だ。生命の基盤である農業は今後、どうなるのか。生産や教育の現場で21世紀型農業を模索する校友に話を聞く。



米

滝沢 元一郎 (昭和49年法学部政治経済学科卒業)

(たきざわ げんいちろう)

昭和26年新潟県生まれ。就職活動で法律関係の出版社に内定、大手不動産会社1次試験突破の段階で「津南町役場の試験を受けなさい」とご両親に懇願され、外振を固められて「仕方なく」帰郷。役場では観光課で年金保養基地で唯一黒字となった「グリーンピア津南」始動に尽力し、農政課では農産加工所などを立ち上げた。30年勤めて退職し、農家専業に。現在は書道教室も開いている。



農家は目指す農業を実現すべき!

"分家制度"で消費地との結びつきを深めたい

津南町はコシヒカリで知られる中魚沼郡にあります。全国的なブランドですが、特においしいコシヒカリがとれる田んぼは信濃川の堆積土が作るわずかな面積しかありません。そこで耕作地を増やす国家事業が始まり、約1400ヘクタールの田畑が開かれました。

川沿いの良質な田んぼ約4000坪を継いだ僕は稲作農家としてやってきました。しかし近年は30%減反を強いられ、実際に収穫するのは3000坪です。米価維持のためには必要な政策かもしれませんが、良質で需要がある米が穫れる土地もその他の土地も一律で減反する必要があるのか、疑問です。減反政策が始まって約30年、近頃は地域の人たちが協力して少しずつ自主流通を始めています。

安全でこだわりのある食品が求められている現代、米袋に生産者の写真を貼り付け、自分あるいはグループで自主的に流通経路を作ったり、販路を確保する時代になったと思います。農家は工夫が必要です。大きな機械を導入してひとりで大きな面積を耕すのか、いいものを作って限られた人に流通させるのか、安心感と信頼感と味で交流していくのか。工夫して目指す農業を実現させるべきです。交流型は、消費者にも耳寄りな話だと思います。

僕が考えているのは“分家制度”です。都市や日本中の家族と分家契約を結び、分家料をいただく代わりに季節の農作物を供給し、家族や子供たちを受け入れるんです。自然の豊かさ、厳しさ、楽しさ、怖さ……土地はいろいろなことを教えてくれるでしょう。2004年、新潟は台風や地震に見舞われましたが、災害対策の面でも生活レベルで消費者と生産者の結びつきを深める必要があるはずだと。

この地域はもうひとつ高齢化問題も抱えています。高齢化率は40%。新しく開かれた大きな基盤を生かすには若い力が必要です。

近代的な堅実経営をいち早く実践!

安心安全のニーズに応え、トレーサビリティ確立

関東ローム層のサラサラした土で作る川越の農業は江戸時代から雑木林の落ち葉を集めて堆肥にし、土地に返す武蔵野の循環型農業を実践しています。

私は2.5ヘクタールの土地で、水菜とホウレン草の露地野菜を作っています。野菜農家を左右するのは天気でしょうね。2004年のように雨が多いと不作になりますから毎日、天気予報とにらめっこ。低温保存できる予冷庫を活用して出荷調整した結果、安定した価格で市場に供給できました。

当家は私と家内と長男、10年以上のベテランパート5人でやっています。2002年に他の2家族と「家族経営協定」を締結し、休日や給与などを規定して労働環境の充実を図りましたが、実はそれ以前から文書化しなかったものの労働条件は明確にして青色申告していました。ですから協定は、私がやっていたことを家族間に広げただけ。

私が就農した25年ほど前、作物はゴボウやニンジンでした。これらは収穫までに時間がかかりますが、葉物はタネまきも収穫も毎日、手間がかかります。回転も速く作業は忙しくなりましたが、反面、収入が大きくなって経営は安定しました。事業主として作物の転換は正解でした。

川越の農業の強みは大消費地が近くにあることです。流通の仕組み作りはもちろんです。現代は安心安全を保証しなければ農作物は消費者に受け入れられません。そこでトレーサビリティシステムを地域JAで確立し、名前入りのパッケージで出荷しています。ですから消費者は私の農地や肥料などの生産履歴を追跡することができます。ニーズに応えなければ産地は守れません。今後も“安心安全”を推進し、国の基本である農業を守りたいと思っています。



石川 秀夫 (昭和53年農獣医学部農学科卒業)

(いしかわ ひでお)

昭和31年埼玉県生まれ。「農家の長男なら当然」と農業高校に進み、「行ってみたい」と本学進学。卒業後に就農し、20年ほど前にお父様からバトンを受けた。近代経営を志し、収穫の安定と業績アップのため、根菜から葉物野菜に転換。夏のホウレン草にも挑戦したが、失敗。現在は従業員や消費者のため「確実に」を信条として水菜などを栽培。「農業はやり甲斐があります」。

酪農

若月 一成 (昭和57年農獣医学部畜産学科卒業)

(わかつき かつなり)

昭和34年千葉県生まれ。日大習志野高から本学へ。「動物が好きだったし、景気も良かったので親父の後を継ぐのは自然の流れ」と畜産を学ぶ。卒業し就農した途端、引退を宣言した父親に代わって経営一切を引き継ぐ。現在130頭の乳牛を飼い、別に約60頭の子牛を「育成してもらうために」北海道・岩手に預託している。1日の生産量は2500kg。妻は大学時代の同級生の由美子さん。



搾乳方式を換えることで、労働集約性をアップ 完全栄養食品を生産する誇りが支えです。

四街道・佐倉・千葉の一带は下志津原といって、戦後間もなく軍の引き揚げ者が開拓農民として入植した地域です。ほとんどの家が牛を飼っていました。今、開拓二世の9割以上は会社勤めをしています。酪農家は下志津原全体で約10軒、四街道では現在5軒です。

27歳の時に心筋梗塞で倒れてしまいました。1頭当たりの搾乳量を上げようと無理をしたせいです。そこで搾乳の考え方を180度変えました。従来は「つなぎ飼育」といって人が牛の元へ行く方式でしたが、牛が人間の元に来てもらう「フリーストールパーラー」方式に変えたのです。搾乳する機器のある場所に牛自ら来て、終わると牛舎に帰る。またエサを食べるのも、休むのも牛の自由にさせています。人手も私と妻以外には、パートが2人(11人をローテーションで回す)で済みます。この方式を導入したお陰で労働集約性は飛躍的に高くなりました。

近年、住宅や工場などの進出が目立ちますが、まだこの地区は市街化調整区域です。開拓の仲間の理解があるので助かっています。飼料畑にしている土地約13ヘクタールも、仲間から借り受けたものです。それでも飼料の量は不足し、輸入物を使用していますが、港のある横浜や鹿島からの運送料が安く済むのが都市近郊型酪農のメリットです。国内の運賃費が何より高いのです。逆に大変なのが糞尿の処理です。家畜排泄物法が施行になり、適切に処理するためのコストは、牛舎の費用以上かかります。

経営は確かに厳しいものがありますが、神が与えてくれた完全栄養食品である牛乳を生産しているという誇りが、私を支えています。

ブランド志向と効率化優先でウメ栽培

農業は新しいビジョンを持ってない状況です。

昭和40年代初め、まだ過疎地帯だった港北地区にまちづくりが始まりました。山林や畑が開かれて区画整理された結果、当家は調整区域としての農地60アール、山林1ヘクタール、市街化調整区域2ヘクタールを所有することになったのです。私は農地60アールの3分の2でウメを栽培し、3分の1で野菜や果樹を作っています。品種は人気の高い「南高梅」20アールと「白加賀」20アール。収穫量は約500kgで、5月末の1週間ほどかけて、ひとりで収穫しています。人手が足りないで効率を優先して、粒が大きく出来のいいものだけを採ります。

ブランドや効率を優先したのは20年ほど前、農業を始めた頃からです。モータリゼーションの発展により都市農業は大量消費地に近いというメリットがなくなり、品質的にも研究開発に熱心な本場の産地には及ばない状態でした。そんな中で競争力をつけるため、人真似が大嫌いな私はオリジナル性を打ち出そうとウメに着目したのです。作物の多くは秋に収穫を迎えますが、それらは日照時間が短く大労働力で一気に収穫しなければなりません。一方、春に収穫するウメは長時間労働できるので疲れも半ばです。また強風で小粒のものが自然淘汰されるのも計算づくでした。

日本の農業は狭い農地で大量の収穫を得るために大規模投資しますが、農業といえども職業ですから業績は上げなければなりません。工業製品と異なり最低価格すらない現状で農業を全うするには流動資産で底支えするしかないのです。私の場合は不動産で赤字の農業を支えています。

高齢化が進み、農家は今後のビジョンを持ってない状況です。私の後継者も…? 個人が大きな土地を所有する時代ではなくなったのでしょうか。産業も適者生存の時代、農業はこの先、自然淘汰されていくと思います。



大久保 晃 (昭和27年農獣医学部農学科卒業)

(おおくぼ あきら)

昭和4年神奈川県生まれ。北条時代に始まる富農に生まれ、「世の中は数字で動いている」と旧日大第四商業高校で簿記・経理を勉強。大学では、家業を継ぐため農学部へ。卒業後、三井軽金属で庶務・会計畑を歩み20年後、「家業を守るため」港北ニュータウン計画の進展に合わせて退社。50歳から農業に従事。ウメ栽培のほか、1000坪でアパート・マンションを経営している。

果樹園

高齢化問題が 立ちふさがっている現状では、 機械化等で労働を軽減し、 受傷を防ぐしかありません

現在、日本の総人口に占める高齢者(65歳以上)の割合は19.5%で、2014年には総人口の4分の1になるだろうと予測されています。高齢化率を2000年の統計でみると、都市部は約15%で農村部は25%超。農村部は、都市部の20年先の高齢化が進んでいます。ですから、農村部を研究すれば、その後に来る都市部の、そして日本全体の高齢化社会に対する準備ができると考え、主宰する生物生産施設流通施設学研究室では農村で働く高齢者を研究しています。

和歌山県有田市のみかん農家では、作業にどれだけのエネルギーを消費するかを調査しました。みかんは南側の傾斜地で栽培するのですが、夏、炎天下の防除作業は大変で、心拍数は傾斜が大きくなるほど、速く大きな値になりました。被測定者の高齢者の方に万が一が生じて大丈夫なように酸素吸入器を持参しているのに、蓄積した体力があるのか、高齢者はミカンの防除作業を平然とこなしていました。また、神奈川の酪農農家では搾乳と糞尿処理という酪農の二大労働の負担を軽減するためにはどうしたらよいかを調べるため、高齢者が主で働いている農家も調査しました。

さらに、各地の選果場も調査しました。野菜や果物を規格ごとに選果して包装する施設を「選果場」といいます。そこで働く人もお年寄りが多く、山梨の桃の選果場では高校生2人の他は全員60歳以上で90歳の方もいました。しかも県内に働き手がなく、青森のりんご農家が出稼ぎにきているのです。

その上、選果場に選果物を持ち込む農家の働き手もお年寄りが多く、軽トラックからケースを降ろすときに力が入ると心拍数が急上昇していました。荷受場所に油圧式の補助装置を完備した選果場もありますが、とてもお年寄りがこなす労働ではありません。2001年の集計では、農業就業人口に占める65歳以上の割合は51.2%に上ります。農業は消滅させてはいけない産業ですが、前途には後継者不足による高齢者問題が立ちふさがっています。

もちろん若者が後継した農家もあります。しかし日本の農家は5ヘ

川西 啓文 (昭和49年農獣医学部農業工学科卒業)

(かわにし・ひろふみ)
生物資源科学部教授 博士(農学)
昭和26年香川県生まれ。日本と中国の農作業現場でフィールドワークを展開中。著書、学術論文に「畜舎の臭気に関する研究」(共著)「農業施設における中高齢者の作業事故の実態」(共著)など。農業気象学会、日本家畜管理学会、日本建築学会所属。栃木県鹿沼市の稲作農家、新横浜駅前の野菜農家、会津と愛知の二元農家など、川西研究室の卒業生には農業後継者も多い。



クタール以上の土地を持っているのが約1%、1~5ヘクタールが約29%、1ヘクタール以下が約70%です。場所や作物によって違いはありますが、後継者問題から考えると、酪農家と施設園芸農家8割は生活できるので後継者がいますが、その他は厳しいといわざるを得ません。といっても1時間当たりの労働単価をサラリーマンと比べると、施設園芸で8割、酪農で6割程度なのだそうす。

私見では、農産物はもっと高価であるべきです。毎日3回、口に入れる安全な食物にお金をかけるのは当たり前だと思うのです。農産物が高くなれば農業の単価が上がりますから、後継者は出て来ます。簡単な理屈ですね。確かに近年は食の安全安心を心がけている人はいますが、まだまだ少なく、「安い」に負けている消費者が多いのが実情です。

現状では、機械化等でお年寄りの労働を軽減し、受傷しないような研究を続けなければならないと考えています。



環境問題や食料問題に さらされている現代、 農業を正しく理解し応援する 人達が絶対に必要です。

花巻農業高校というと、宮沢賢治さんが教壇に立った学校としてご存じでしょう。先生が独居農耕生活を営まれ、「羅須地人協会」を設立された別宅は敷地内に移築されており、旅行や研修で訪れる人々が後を絶ちません。

そんな賢治さん縁の当校は、教育方針としてまず「豊かな人間性」を掲げています。生物である植物あるいは動物を介する教育により命を大事にする人間、賢治さんのいう「慈しみのある人間」を育てます。次に農業高校として農業に関する知識技術のプロを育成する「専門教育」を標榜し、「分かる」ではなく「できる」レベルまで到達させて資格を取得させています。第三は、身につけた人間性と専門性をフルに生かした「在り方・生き方教育」です。こう見ると、農業が教材としていかに有効か、分かると思います。

農業は今、個別の生業として成り立つのは難しい状況です。かつて当校から巣立った人材は全て農業経営者になりましたが、現在は400人中数人にすぎません。農業が高度化したため3年間で全てを身につけるのは不可能で、上級学校への中継場所となっているのは事実ですが、大学に進学するのは10人程度です。残りは、農業経営者になるとしても親が高齢になって給与所得層から戻るという格好です。また、生徒の3分の2以上は非農家です。

そんな中で私たちが生徒に訴えたいのは、「農業という産業を正しく勉強しておかなければならない」ということです。食料、環境問題にさらされている現代、農業を理解し応援できる市民がこの国には絶対必要だからです。食の安全安心が話題になっていますが、私たちはこれまで食品というものに対してあまりにも関心がなすぎました。けれども「食べる=心身の健康」という意識が根底にあれば、値段や形や色には惑わされません。食に関する知識や危機感を示せる人たちが社会に出て行けば行くほど、農業を見る目が矯正されていくはずで、農業経営者にはならなくても、農業高校で基礎を学んだ人達が増え

昆野 安志 (昭和43年農獣医学部農業経済学科卒業)

(こんの・やすし)
岩手県立花巻農業高等学校校長
昭和20年岩手県生まれ。本学卒業後、郷里イーハトーブに帰り、県立盲学校で農業実習助手。翌年、定時制高校農業科に移って以来、稲作を担当。「かなり厳しかった」先生のあだ名は「カマキリ」。「師弟同行」を理念とし、語りかけながらの密度の濃い教育を実践。花巻農業高校は岩手県の農業教諭のおこがれで、1999年に教頭で初赴任した際は作品を猛勉強。「教科書ではなく、話を聞いて体で覚えなさい」という賢治の農業教育に対する姿勢は正しいと思います。大船渡農業高校校長を経て、平成14年から現職。



ていけば、農業は支えられると信じています。

そのためには、私たち大人が教育の現場でも社会でも農業の厳しさ、難しさではなく、楽しさ、素晴らしさを言い続けていくことが大切です。花巻でも協業経営や法人化など先駆的な取り組みをしている農家があり、そんな人々と接する子供たちは夢を膨らませています。今後は全国で農業経営法人も登場するでしょう。そうすれば土地を持たない家の子供たちも、農業の知識や技術を生かして就職する道が開かれます。農業に関する資格をもっと多くして、農業に夢が持てる環境を整えるべき時なのです。

減反政策が始まった頃から農業は軽視され、生産教育一辺倒だった農業高校も変貌しました。これからは自然の大きなメカニズムの中で生命体同士の調和を図る賢治精神の教育で、農業を支える人材を輩出したいと思っています。



チームで戦うと、高め合い、 支え合いの相乗効果が生まれます。

夏のアテネオリンピックで競泳日本代表を率い、金3個、銀2個、銅3個という戦後最高の成績を残した。「アテネの空に日の丸を!」を合言葉に、水泳という個人競技にチームスピリッツを取り入れた「上野ジャパン」は、快活で伸びやかで、それでいて強かな勝負師の集団だった。水泳ニッポンを復活させた指導者が若者を突き動かす術を語る。

培ったチーム力と勝負強さが結果に結びついた

——大躍進を遂げたオリンピックを終えたご気分は。

目標通り毎日1個、8日間の競技で金3個を含む計8個のメダルを獲得できて満足していますが、責任が果たせてホッとしている反面、次のハードルが非常に高くなったなあと感じています。シドニー五輪を終えた時、次の五輪の目標として男子の活躍とメインポールに日の丸を掲げることを誓いましたので、大満足といってもいいでしょう。

競泳が急に強くなったといわれますが、そうではなくアトランタ以降に培ってきたことが、本番で結果に結びついたのです。実力ある選手がそろっていながらメダル0に終わった96年のアトラン



アテネオリンピック慰労会の壇上で紹介を受ける本学関係選手・役員



日本大学豊山高専教諭
同校水泳部顧問・日本大学水泳部監督
競泳日本代表ヘッドコーチ

上野 広治 (昭和57年文理学部体育学科卒業)

(うえの-こうじ)
昭和34年東京都生まれ。日大豊山高から本学に進み、卒業後、豊山高水泳部コーチに。97年、アトランタ五輪メダル0に終わった日本代表の立て直しを任せられ、競泳日本代表ヘッドコーチに就任。2000年シドニー五輪でメダル4個、01年世界選手権で4個、03年世界選手権で6個と着実に成果を上げ、遂に2004年アテネ五輪で8個のメダルを獲得、水泳ニッポンを復活させた。99年から本学水泳部監督。著書に「アテネの空に日の丸を!」(東洋経済新報社)。

タ五輪の反省として、個々で戦っていたこと、ここぞという時に実力が発揮できなかったことが指摘されました。そこで、当時の代表に学校に携わっている指導者がいなかったことから、高校の教諭でジュニアチームのヘッドだった私に白羽の矢が立ったのです。私は「チームの水泳競技」というポリシーを掲げ、所属コーチとの連携や国際競技に強いメンタルづくりに努めました。

また千葉すずさんの問題提起により、水泳協会は派遣標準記録を設定し、選考会決勝でクリアしなければならないという明確で厳しいハードルを設けました。これによって、9着ではなく8着で決勝進出する、また4着ではなく3着に入ってメダルを取る、勝負強さが身に付いたのです。20人という少数精鋭主義だったのも好成績を挙げた理由でしょう。

——個人競技の競泳にチームスピリッツを導入したのは。

五輪は非常に過酷で、様々な圧力がかかりひとりで戦っているとつぶれてしまいます。けれどもチームで戦うと、高め合い、支え合いの相乗効果が生まれます。それを最も表現するのはリレーですから、最終日の男子メドレーリレーでメダルを獲得できたのは殊更うれしかったですね。

また競技力のレベルが上がると、人間性や社会人としての姿勢が問われます。個人で結果を出すのが競泳ですが、応援してくれる人、支えてくれる人への感謝の気持ちは成績を残すことでしか表せません。それを十分に実感している選手たちはレース後、感謝の思いを語っていましたね。学校の先生として言わせていただくと、いい教育ができたと思無量でした。なおかつ、彼ら

は帰国してからも学生選手権や国体で五輪と同じようなレベルで泳ぎました。練習を続けていなければできません。メダリストとして恥じない行為だったと敬意を表します。

判断・決断・覚悟を持って五輪に臨んだ選手たち

——チーム作りは、実社会でも活用できそうです。

学校では、「よいクラス」と「悪いクラス」という問いを生徒にしています。すると彼らの経験から「悪いクラス」の例は出ます。ならばその点を改善すれば「よいクラス」になるはずですよ。実社会では「よい会社」「悪い会社」と置き換えることができるでしょう。そしてリーダーを作る。今回のチームは山本貴司選手がキャプテンでまず彼を引き上げ、次に北島康介選手が世界記録を出してポイントゲッターとなり、「できる」という勢いがチームに充満しました。それが選手たちの判断・決断・覚悟を促し五輪へ向かった

2004年アテネオリンピック 日本大学関係選手記録

競技名	種目	氏名	卒業年	学部・学科	順位	記録	
陸上競技	走り幅跳び	寺野 伸一	平成15年	文理・体育		7m70	
	棒高跳び	澤野 大地	平成15年	文理・体育	13位	5m55	
	槍投げ	村上 幸史	平成14年	文理・体育		78m59	
	1600mリレー	向井裕紀弘	平成15年	文理・教育			
	競歩(20km)	谷井 孝行	4年	文理・体育	15位	1時間23分38秒	
	競歩(50km)						
	水泳	競泳(100m背泳ぎ)	森田 智己	2年	経済・経済	銅	54秒36(日本新)
		競泳(200m背泳ぎ)				5位	1分58秒40(日本新)
		競泳(400mメドレーリレー)				銅	3分35秒22
		競泳(400mメドレー)	三木 二郎	3年	経済・経済	7位	4分19秒97
競泳(200mメドレー)		8位				2分2秒16	
競泳(200mメドレー)		森 隆弘	平成14年	文理・体育	6位	2分0秒60	
10m高飛込み		宮崎多紀理	平成15年	文学研究科教育学専攻修了	11位	479.10点	
シンクロ		原田 早穂	3年	文理・体育	銀	98.501点	
シンクロ		鈴木絵美子	4年	経済・産業経営	銀	98.501点	
ボート		ダブル	浦 和重	平成10年	法・政治経済	6位	6分24秒98
野球		清水 直行	平成10年	経済・経済	銅		
ライフル射撃	10mエアライフル	三崎 宏美	平成12年	文理・中国文学	22位	392点	
	50mライフル3姿勢				24位	569点	
重量挙げ	62kg級	今村 俊雄	平成14年	経済・産業経営	11位	270キ口	
レスリング	フリースタイル60kg級	井上 謙二	平成11年	文理・体育	銅		
ヨット (セーリング)	49er級	中村 健次	昭和62年	法・政治経済	15位	146点	
	男子470級	関 一人	平成10年	法・政治経済	銅	90点	

長野県研修員として中国で学ぶ



元ニッポン放送アナウンサー
小口 絵理子 (おくち・えりこ)

昭和49年長野県生まれ。平成10年本学芸術学部映画学科(演技コース)卒業。同年ニッポン放送入社。「高嶋ひでたけのおはよう! 中年探偵団」「高田文夫のラジオビバリー昼ズ」「三宅裕司のザ・ベスト30「スゲェ!」」「テレー伊藤のってけ!ラジオ」などを担当し、15年11月退社。本学在学中に出演した卒業制作「夢二人形」はカンヌ国際映画祭に出品された。12月にDVDが発売予定。http://www.tatsuji.net。現在、長野県の派遣で中国・河北大学に留学中。

「アナウンサーになった」のも運命ならば「アナウンサーを辞めた」のも運命なのかもしれない。体調を崩して、大好きだった会社をやめ、思い切って手術に踏み切ったのが今年の2月20日。そして5月、実家の長野でリハビリを兼ねた散歩の途中、手にしていた携帯ラジオから聴こえてきたのが、中国への研修員募集の話だった。あわただしく応募資料を整え、試験を受けてここ河北省保定市にやってきたのが8月27日のこと。それから3ヶ月ほどたったいま、カタコトの中国語で食事や買い物をし、事務室で用件を伝えている自分が、なんだか可愛く思えてくる。

私にとってのひとつの転機が「今」なのだとしたら、中国にとっての転機もまさしく「今」だ。もう、いちいち説明するまでもないが、2008年の北京オリンピックに向けた建設ラッシュ、その後2010年には上海万博と、中国は今後十数年で空前の繁栄を迎えることは間違いない。また、中国の人も、それを信じて疑っていない。私の住む保定市は北京市の隣町のため、北京によく出かけるのだが(隣と言っても120キロほどのところ)、行くたびに巨大な施設がお目見えしている。タクシーの運転手にアレは何か?と尋ねても「わからない」といわれることが多くなった。

こうした話とは別に、もうひとつ私が気になって仕方のない中国の転機がある。

それは、一人っ子世代の社会への進出である。1979年に漢民族への一人っ子政策が始まって25年。中国の発展とともに成長してきた子供たちがいま、続々と社会の一員として働き始めているのである。政府の人口抑制策としてとられたこの政策は、確実に一定の効果をあげている。でも、「小皇帝」と呼ばれるほど、両親祖父母から溺愛され甘やかされて育ってきた彼らが社会の一員としてどう中国経済を支えていくのか……。こればかりは未知数で、誰にも分からない。

実感として、中国の大学生は勉強熱心で、英語を話す学生も多い。両親をとっても大切にされる。街で私が右往左往していると、積極的に手を差し伸べてくれる。片や、一緒に卓球をしても、私のほうがうまいと、たちどころに機嫌を悪くしたり、大勢で食事中「ダイエット中だから」と一切箸をつけなかったりといった、日本人の感覚で言うわがままな振る舞いを目にするのが何度かある。無論すべての一人っ子がそうではない。むしろ、美味しくないのに「美味しい」といって食べたり、楽しくないのにニコニコしている日本人のほうが、彼らにはよほど奇異に映っているはずだ。

もうひとつ、「一人っ子同士の結婚」が増えていくことも今後の中国の社会問題だ。一人っ子同士が結婚した場合、一組の夫婦だけで4人の父母を扶養することになる。兄弟姉妹で金銭的・時間的に補い合うこともできない。私の友人の中国人(女性)は漢民族でありながら弟がいる。彼女の両親は年取の半分以上の罰金を払って弟を持った。自分たちの老後を娘一人の肩に背負わせるのはあまりに酷だと感じたからだそうだ。もちろんこういう家庭は少数で、大多数の漢民族の友人は一人っ子だ。そこで、いま、結婚相手として人気のあるのが「一人っ子でない男性・女性」だ。女の子同士のたわいもないおしゃべりでは、結婚相手の条件に求めるのは、カッコいい・頭がいい・お金持ち…など国が変わっても内容はあまり変わらないのだが、現実問題として結婚を考えた場合、「一人っ子でない」というのはかなりの好材料らしい。友人・血縁の情が深い中国では、節目ごとに一族が集いにぎやかに酒を酌み交わす。私も国慶節のときに、5日間友人の実家で過ごさせてもらったが、なんともいえないあたたかいムードでとても心地よかった。でも、一人っ子世代の子供たちは、今後いとこもいなくなる。伝統的な中国の文化・習慣にも変化が現れてくるのかもしれない。



OB・OGが経営している

お 店 紹介

うちな一料理「首里いろは庭」

津嘉山 正恒さん

(昭和39年法学部新聞学科卒業)

中華+寿司+和食+伝統料理=いろは庭？
チャンプルー文化でプロの味を上げた有名店

お店で本当の家庭料理を出されるとがっかりするでしょ。

首里城から続く金城町名物の石畳を降りきった一角。静かな住宅街のごく普通の民家から母娘が出てきた。関西弁も滑らかな本土人「やまとんちゅー」は明らかに観光客。「おいしかったやろ」「ぎょうさんお料理並んでたけど全部食べてしもた」。笑顔の2人は待たせていたハイヤーに乗り込んで走り去った。

沖縄独特の金色の瓦と紅型ののれんが鮮やかな「いろは庭」は、観光客はもちろん地元の人にも一目置く琉球料理店。「庭」は琉球方言で「な」。人々が集まって親睦を深め、歌ったり踊ったり、何か楽しいことが起こる場所を意味する。

「テレビに出たり雑誌に出たりしているせいか、観光客が多いです。たくさんの人に沖縄料理を食べてもらいたいと願って出した店ですが、一期一会の気持ちで、おいしく心を込めて料理すると、一会が重なってリピーターになってくれます」



●プロフィール
津嘉山 正恒
(つかやま・まさつね)

昭和16年沖縄県生まれ。コザ市内で中華料理店を営む家の次男に生まれ、パスポートを取って本学に進学。卒業後、東京とロサンゼルスで寿司店などで修業し、30歳前後で「いろは庭」を、50歳で「いろは庭」を開いた。「桜縁」3号に同じ新聞学科卒で飲食店を開いている人が出ていたので勇気づけられました。目下、跡継ぎの若大将・正さんのお嫁さんを募集中。

南国ならではのほんわかムードを漂わせるご主人の津嘉山正恒さん。屋の一番人気「石畳定食」はこの日、黒米、イナムドゥチ、ウムクジアンダギーなど10品が並んだが、「みんなきれいに食べていってくれます」と目を細めた。

「味付けを複雑にしたり、小鉢に少しずつ品数多くしたり、できるだけ今風に、現代人の口に合うよう工夫しています。家庭料理といっても、本当に家庭料理だとお客様はがっかりするもの。プロが作る家庭料理というところが当店のウリです」

2代目の若大将が洋食とのチャンプルーを計画中？

新聞学科に学んだ津嘉山さんだが、家業が中華料理店だったせいか、自然に料理人になった。とはいっても、ゴチャ混ぜして沖縄化させる「チャンプルー文化」の申し子。津嘉山さんは、土台の中華と修業した寿司と和食、さらに伝統的な琉球料理をいいとこ取りして混ぜ合わせ、いろは庭の味を仕上げた。

「伝統は大切ですが、向上も必要です。大らかな気持ちでいろいろ取り入れるのが沖縄の人は好きなんです。今は息子がワインの勉強をして洋食とチャンプルーしようとしています」

いろは庭は目下、拡張計画中。長寿の源ともいわれる沖縄料理のファンはますます広がりそうだ。

OB・OGが経営している

お 店 紹介

山形県/ホテルビューくらだ

黒田 俊彦さん

(昭和54年法学部法律学科卒業)

ホテルでありながら、大浴場と心づくしの料理で
温泉気分を味わえる贅沢宿

ビジネス出張にも温泉旅行にも提供する憩いのひととき

将棋駒とフルーツの産地として知られる山形県・天童。西に蔵王、東に月山を戴く自然の宝庫は、東北の要衝として古くから歴史を刻んできた。県下全市町村で温泉が湧く「湯の国」でも、利便性と観光性を兼ね備えているのが天童温泉の特徴。企業誘致が進んだ現代も、ビジネス出張と温泉旅行が隣り合う。

「ですから温泉場らしくないんですが、そんな中で大勢のお客様をお迎えできるのは、東北旅行の要として至便だからでしょうね。夏祭りの季節には、ここを拠点に秋田、仙台、盛岡と東北を巡る方もいます。ビジネスの方にも観光の方にも、ゆっくりくつろいでいただくのが私たちのおもてなしです」

天童駅から1kmという絶好のロケーションに建つ「ホテルビューくらだ」代表取締役の黒田俊彦さんは、柔らかな笑顔で話す。ビューくらだはベッドを置く洋式がメインだが、和室もあり、宴会



●プロフィール
黒田 俊彦
(くろだ・としひこ)

昭和31年山形県生まれ。日大山形高を卒業後、本学へ。小学校から高校まで同級生だった奥様と卒業後に結婚し、黒田姓に。平成14年代表取締役。奥様が専務。ご長男・成彦さんは本学国際関係学部を卒業してホテル日航東京に就職。婚約者の村田純子さんも大学の同級生で3代目は安泰。「法学部の知識はホテル業に大いに役立っています」。

場や大浴場も完備している。ビジネスホテルの独立性と旅館の温かみを融合させたユニークなホスピタリティが話題となり、リピーターを増やしている。

「当ホテルは創業からビジネスホテルとはうたっていません。素泊まりのホテルとしても一泊二食付の旅館としても、お客様の好きなようにご利用いただきたいと思います」

料理長自慢の日替わり夕食はライトクルーにも人気

「もう一つの自慢は食事です」と黒田さんは胸を張る。

ホテルというと、朝食は別料金で多くはバイキング形式の同じメニューだが、ビューくらだの料金設定は朝食付。夕食もわずか1300円で、板場を預かって20年の料理長が日替わりメニューを用意している。米どころ山形は日本酒も名作が多く、サクランボやラ・フランスなど高級果物の産地として名高い。太平洋も日本海も山ひとつ向こう。四季折々の食膳は豪華だ。

「出張でも、その土地の季節のものを食べたいし、滞在するなら毎日、違うものを食べたいでしょう。ですから毎日市場に仕入れに行き、旬の食材を使った定食をお出ししています」

日本航空の指定宿泊施設であるホテルビューくらだ。世界各地を飛び回る舌の肥えたクルーたちも、心づくしの食事とアットホームな雰囲気を保ちながら、プライベート空間を守るビューくらだの大ファンであるようだ。



●うちな一料理「首里いろは庭」

琉球家庭料理と宮廷料理
昼は守礼定食3000円、赤木定食2000円、石畳定食1500円、イナムチ定食1000円など。夜はいろは庭定食5000円、首里城定食4000円、守礼定食3000円など。泡盛の種類も豊富。
【営業時間】 AM11:30~PM10:00水曜日定休(祝祭日は営業)
【交通】 ゆいレール首里駅下車徒歩15分。
首里城から徒歩15分。那覇空港から車で25分。
【住所】 沖縄県那覇市首里金城3-34-5(駐車場15台)
【電話】 098-885-3666 [FAX] 098-835-5112
【HP】 <http://www1.ocn.ne.jp/~irohatel/>
「首里いろは庭」で検索OK

◎一口メモ

津嘉山さんの住まいを改装した「いろは庭」で、現代の沖縄の家を見るのも楽しい。庭には巨大なジャコ貝が置かれ、月桃の葉が揺れる。「以前テレビに出たら、(株)岩手日報・Aプランの同級生から40年ぶりに連絡があつてうれしかったな」という津嘉山さんは「この記事を見た同級生はご一報ください」と話している。東京五輪の年の新聞学科卒業生、注目!!

<読者への特典>

「桜縁」読者及び校友は5%引。

●山形県/ホテルビューくらだ

収容180名シングル32室・ツイン31室・ダブル12室・トリプル3室・和室10室
コネクションルーム3室/大浴場兼方大浴場(サウナ付)・湯人大浴場/日本料理
【四季】レストラン【舞鶴】/大宴会場【湯】/駐車場50台/売店/会議室
【交通】 お車で：東京から東北自動車道村田JTC
山形自動車道天童JTC一環約5時間30分
新幹線で：東京から山形新幹線で天童まで
2時間45分。天童駅から徒歩12分
【住所】 山形県天童市鎌田1-3-11
TEL.023-654-1515 FAX.023-654-1517

◎一口メモ

「開かさや岩にしみ入る蝉の声」。芭蕉が愛した山寺は天童市内から車で約20分。満開の桜の下で催される舞鶴山の人間将棋、真っ白な雪景色の中で鍋物を堪能する平成鍋合戦など名物イベントも数多い。「ホテルビューくらだ」は青物店を営んでいた先代が昭和52年に創業。ロビーでは次男坊のラブラトルトリバー「福」がお出迎え。

<読者への特典>

「桜縁」読者に地酒1本サービス。



動物
ペット
Q&A高橋犬猫病院 高橋 三男 院長
(昭和34年農獣医学部獣医学科卒業)

医療事故の発覚により、医療賠償責任が注目されている。動物医療の分野で、この問題にいち早く取り組んだのが埼玉県だ。医療行為の基本が患者への適切なインフォームド・コンセントであることは人間もペットも同じ。獣医師が治療に専心し、飼い主が納得して治療を受けられるよう、埼玉県獣医師会会長の高橋三男先生は東奔西走している。

Q 医療賠償責任問題はペット医療でも発生していますか。

A ご案内のように動物の愛護及び管理に関する法律が施行され、ペットを家族の一員とする考えが定着し、飼主からは、極めて高度な獣医療の提供が求められています。私は、かねてから、獣医師は、適切なインフォームド・コンセントを基軸として、飼主に安心を提供することが最も重要であると訴えてきました。また、万一の事故を想定した制度の必要性を感じ、先輩の意見を聞いて、今から26年前に「埼玉方式」と言われる制度を確立致しました。今日では、日本獣医師会にて採用され、全国の開業獣医師を対象とした、獣医師生涯教育の推進とともに、保険制度を導入して居ります。計らずも今、全国獣医師賠償責任保険審査委員会の委員長を私が仰せ付かっていますが、獣医師に学術の研鑽の道を開き、飼主には安心を提供したと自負致しております。

Q ペットの世界でも高齢化問題は深刻ですね。

A 最後まで看取る飼い主が増えたのはよい傾向ですが、抱えられないほど大きな犬でご苦労なさっている方もいます。飼い始めるときに、考慮していただきたい点ですね。高齢なペットがかかる病気は人間の高齢者と同じで、腫瘍、糖尿病、歯周病、皮膚病などが増えています。治療もCT、外科手術、放射線治療、食事療法と多岐にわたりますから、インフォームド・コンセントでは費用のお話をし、飼い主の目指すポイントを確認しています。専門医もありますからセカンドオピニオン、サードオピニオンを求めて、納得いく先生を見つけるのがいいでしょう。そのためには年一度、7歳以上なら年二度の定期検診を受けるかかりつけのお医者様を作り、日頃から相談などして信頼関係を築いておきたいものです。



●プロフィール
高橋 三男(たかはし みつお)

高橋犬猫病院院長。昭和11年埼玉県生まれ。子供の頃から動物好きで、犬や小鳥、ハツカネズミを飼い「きちんと面倒を見る子供でした」。県立春日部高校時代、後輩が獣医師が憧れた結果、本学農獣医学部へ。家畜中心の獣医学を学んだが卒業後、小動物時代の到来を予測して研鑽を続け、技術の埼玉をリードしてきた。関東地区獣医師会連合会会長、日本獣医師会組織財政委員会副委員長(賠償責任委員会委員長は現職)などを歴任。現在、埼玉獣医師会会長、日本小動物獣医師会顧問、岩槻商工会議所副会長等。

当院のモットーは、動物の立場に立つこと。獣医師の役割は疾病を治すことはもちろんですが、物いじめ動物のメッセンジャーという側面もあると思うからです。それがペットを自分の体の一部と考える飼い主の精神的なケアにもつながるのです。ペットが健康な生活ができると、飼い主も健康に暮らせますからね。ですからスタッフにはいつも「人と動物が一体であるということをお忘れはいけません」と話しています。当院は365日休診はありません。ホテルを併設していますから、いつも誰かが働いています。けれども動物好きで人間性豊かなスタッフは楽しそうに働き、技術の習得にも熱心です。

●高橋犬猫病院 ペットサロンサンタ 株式会社TPC

[診療時間] 平日 午前9:00~12:00 午後4:00~7:00
日曜・祝祭日 午前9:00~12:00
[休診日] なし
[交通] 東武野田線岩槻駅下車徒歩約8分
[住所] 埼玉県岩槻市本町3-16-10
TEL:048-756-0167(代) FAX:048-756-0168
<http://www.takahashi-pc.com>

◎一口メモ

昭和37年開業。10年前、敷地内にシャンプーやトリミングだけでなく健康面からペット美容を行う美容室と25床のホテル機能を持つ「ペットサロンサンタ」を併設。獣医師は、高橋先生とご子息で平成3年に本学を卒業した長男・一成先生、動物看護士及びトリマーは6人。ほかに、ウエルシユテリアの看護士長スーザン、彼女の娘で看護婦見習いのルーシー。院長夫人は縁の下の力持ち。病院の患者数は月約700。ホテルは夏休みなどのハイシーズンは満杯となるため、増設を計画中。

われら日大ファミリー
神川弘さん一家

リョービ株式会社 ダイカスト本部 広島工場設計課 製品設計係
神川 弘 (昭和55年理工学部精密機械工学科卒業)
(かみかわ ひろし)
昭和31年広島県生まれ。本学卒業後、日立製作所で半導体製造装置の設計をしていたが、5年後に帰郷。デルタ工業を経て平成8年リョービへ。神川家は祖父の代に米カリフォルニア州に移住して流通業、ホテル業などを営む「KAMIKAWA BROTHERS INC」を興したが、戦争勃発により没収。開戦前に帰国した祖父が広島市内で不動産業を営み、2男を本学へ進学させたのが日大系系の始まり。父・一さんは校友会広島支部の設立に尽力した。弘さんの1男2女も3代目日大生を目指している。

精密な金型に溶かしたアルミニウムや亜鉛などの合金を注入し、自動車や家電、精密機器などの様々な部品を作る技術または製品そのものをさす「ダイカスト」。世界屈指のダイカストメーカーとして知られるリョービで、金型の設計をしている神川弘さんは、本学で精密機械工学を学んだ。「本当は少し畑違いなんです」と苦笑い。「でも、大学で学んだ機械の基本的な知識は役に立っているかな」と遠い目を振り返った。

神川さんは、日大ファミリーの2代目。校友会広島支部の設立に奔走したお父さんの一さんと叔父の恭一さんが経済学部、お兄さんの貢さんが理工学部交通工学科の卒業生で、奥様・直美さんのお父さんが理工学部土木工学科を卒業している。日大進学を勧めたのはもちろん一さんだ。

「厳しい父で、子供たちへ強い影響力がありました。『日大はいい学校だ』というのが口癖で、よく学生時代の話もしてくれました。本当は建築を学びたかったようで、息子は理工系に進ませたいと考えたそうです」

卒寿を過ぎてご健在な一さんは昭和11年の卒業。当時は心理学や西洋史、経済学原論など、ほとんどの教科書が英語の原書で、日本語で書かれていたのは国語と漢文だけだった、とか。「その点、おまえたちの教科書は全部日本語で書いてあるから楽だな」。弘さんと貢さんは、皮肉混じりに、そう父から言われたことがあるそうだ。

「そんな講義ですからみっちり勉強して、身になっているんでしょうね。今でも家族が集まったときなど、楽しそうにドイツ語の歌を歌い出しますよ」

また一さんは学生時代、身長178cm、100m11秒台というアスリートで、サッカー部ではセンターフォワードとして活躍、学生選抜に選ばれ海外遠征したこともあったとか。2.26事件で青年が決起した年の卒業生としても大学への思いは深く、卒業後も長く同期生の交流が開かれていたという。「日大のいいところは先輩後輩の縦のつながり、同期生同士の横のつながりが密接なこと」と子供らに語って聞かせた父の青春時代は神田三崎町に集約されている。

「私は習志野市の大平原でしたから、環境は全然違いますが、先生方も設備も充実していると感じたのは父と同様です。それから、卒業生がたくさんおられますので、仕事でも、地域で暮らしていても、いざというときに頼りになると思えるのも父と同じですね」

そんな弘さんは先頃、部署こそ違いますが、社内に精密機械工学科のクラスメイトがいることに気づいた。「話したこともありませんでしたが」と正直に明かしてニコリ。再び校友の輪が繋がって、ちょっぴりうれしそうだった。

日本大学 経済学部校友会

はじめに、経済学部創設100周年を祝福するとともに、100年の長期にわたり今日まで築き継承されてこられた先輩諸兄のご苦労に心から敬意と感謝を申し上げます。経済学部で学び巣立った卒業生は10数万に達し各界で活躍される校友の姿は頼もしい限りであります。

我が校友会は、昭和11年11月に商経学科同窓会として発足したのが始まりで、歴代7名の会長が就任し今日に至っております。校友会役員は現在400余名で構成され、毎年7月に定時総会を開催、3年毎の役員改選をもって運営しております。

主な事業としては、毎年卒業生に対し卒業生名簿ならびに記念品の贈呈をしています。さらに、校友の皆さんには学部祭「三崎祭」の折に同窓および教職員の先生方との旧交を温める場として、ホームカミングデーを開催しています。2000年からは会報の発行、ホームページの開設にも着手し、校友ならびに在学生への情報発信に努めております。それらと並行し、経済学部創設100周年を記念して、次の3大事業を行っております。



平成16年「新年賀詞交歓会」

①校友会賞の創設

各分野において顕著な活躍をされた方に賞状、記念品ならびに金一封を贈呈し、新年賀詞交歓会にて表彰式を挙げております。

- ・学術奨励賞……優秀な成績を修めた学生。
- ・スポーツ振興賞…スポーツで特筆すべき成績を修めた学生または校友。
- ・社会貢献賞……在学中社会貢献を行った学生。
- ・校友会功労賞……永年校友会に尽力され、社会に於ける活動をも顕著であった校友。

②国際親善賞の設置

経済学部を卒業する海外留学生に対し、卒業を祝すと共に末永く友好親善に寄与していただく意味合いを込めて表彰しております。

③都道府県支部の設立と正会員入会の促進

主要都市に経済学部校友会の支部を設立し、大学の発展と校友の活発な活動を期しています。

大学と校友会は車の両輪で、校友会組織の充実こそが学部の発展に繋がり、貢献するものと捉え、しっかりサポートしていきたいと存じます。更なる発展のため輝く伝統を継承して参りたく、今後とも関係各位の一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(日本大学経済学部校友会会長 長谷部平吉)



長谷部 平吉 会長

日本大学校友会 千葉県支部

平成16年度定期総会は、10月2日(土)14時より千葉駅ビル6階ペリ工大ホールにおいて盛大に実施された。

ご来賓として、大学代表・小野沢元久副総長、本部から校友会会長代行・田中英壽常務理事、小嶋勝衛理工学部長、安西偕二郎薬学部長をはじめ、理工、生産工、工、薬学部の校友会会長や諸先生方のご臨席を賜り、錦上花を添えていただいた。総会議事は滞りなく終了し、引き続き小嶋理工学部長の「今年の理工学部—船橋キャンパスの働き—」と題して特別講演をパソコンとプロジェクターを駆使してご講演をいただいた。続いて懇親会に移り和気藹々と盛り上がり、最後は日本大学校歌を工学部OBのリードにより全員で大合唱し散会した。

さて、支部の生い立ちについて言及する。千葉県支部は、昭和25年9月千葉桜門会として千葉市で呱呱の声をあげ、今日的組織が整備されるまで歴代会長が苦勞して累々と築きあげてきた支部である。

「県支部」と呼称されるようになった今日でも会員増強、特に若手会員の参加呼びかけには苦勞している。

そこで支部会則を改め、県内の各職域・地域の既成組織を県支部の組織母体と位置づけ支部組織の拡大を試みた。現在14の地域・職域の桜門会、部会がある。そこから常任委員として2名、幹事として2名をそれぞれ推薦していただき支部の役員として支部長が任命し、役員全体会議を役員総会として、総会に次ぐ決議機関と位置づけた。この役員総会を軸に若手会員の参加呼びかけと母体の会員増強に力を入れ、支部全体の活性化と年一度の総会をより楽しく相互の福利に役立つ企画をたて、組織母体の発展はもとより支部全体の発展と充実を目指して運営にあたりたい。

会員各位の更なるご清栄を祈念し、支部に対し大きな協力とご支援をお願いし支部紹介とする。

(日本大学校友会千葉県支部支部長 渡邊瑞男)



渡邊 瑞男 支部長



Nihon University Alumni Association



総会で特別講演する小嶋理工学部長



平成16年度支部総会

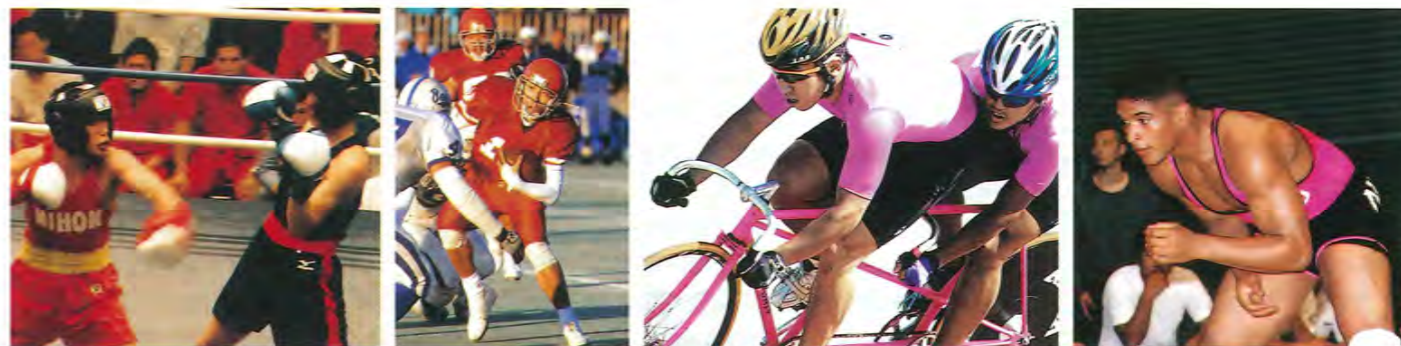
イベント情報

12月以降の保健体育審議会所属各部の試合日程をお知らせします。

詳しくは保健体育事務局(電話03-5275-8279)までお問い合わせください。



〈写真提供 日本大学新聞社〉



競技部	日付	大会名	場所
陸上競技部	1/2~1/3	東京箱根間往復大学駅伝競走	東京都~神奈川県 大手町~箱根芦ノ湖
	3/13	日本学生ハーフマラソン選手権	東京都 立川市
	3/20	日本学生女子ハーフマラソン選手権	島根県 松江市
相撲部	12/12	全日本相撲選手権大会	東京都 国技館
馬術部	12/18~12/19	全日本学生馬術選手権大会	// JRA馬事公苑
	12/18~12/19	全日本学生馬術女子選手権大会	// //
空手部	12/12	全日本学生空手道選手権大会	// 日本武道館
ラグビー部	12/19~1/9	全国大学選手権大会	// 国立競技場 他
スキー部	12/20~12/23	全日本学生チャンピオン大会	北海道 音威子府スキーコース
	1/11~1/16	全日本学生選手権大会	新潟県 妙高高原 各スキーコース
	1/27~1/30	全日本選手権大会(ジャンプ)	長野県 白馬オリンピックジャンプ台
	2/3~2/4	全日本選手権大会(コンバインド)	// 白馬オリンピックコース

競技部	日付	大会名	場所
スキー部	3/19~3/27	全日本選手権大会(クロスカントリー)	北海道 札幌市白旗山スキーコース
	3/5~3/6	全日本選手権大会(アルペン)	長野県 野沢温泉スキー場
スケート部	12/17~12/19	全日本選手権大会(スピード)	北海道 帯広の森スケートセンター
	12/24~12/26	全日本選手権大会(シンクロナイズド) (フィギュア)	神奈川県 新横浜スケートセンター
	12/27~12/29	全日本選手権大会(スプリントスピード)	長野県 茅野市運動公園スケートセンター
	1/4~1/8	日本氷上競技選手権大会	北海道 釧路市 各スケートセンター
バスケットボール部	1/2~1/10	全日本総合バスケットボール選手大会	東京都 代々木競技場第1,2体育館
バレーボール部	12/6~12/12	全日本男女選手権大会	// 東京体育館
レスリング部	12/2~12/23	天皇杯全日本選手権大会	// 代々木第2体育館
フェンシング部	12/12	全日本選手権大会	岡山県 玉野市総合体育館
応援リーダー部	12/11~12	全日本学生選手権大会	東京都 代々木第2体育館

法と文理に近代図書館

法学部と文学部の新しい図書館が9月末に相次いで完成、27日に法学部、29日に文学部で竣工式・竣工祝賀会がそれぞれ行われた。ともに従来の大学図書館というイメージを一新、情報発信基地としてのコンピューターシステムやホール、個室などを備えた多機能システムにあふれた施設だ。法学部図書館の吹き抜け部天井の採光ガラスは、常に太陽を追いかけるように設計されているので、曇天の時以外は太陽光が吹き抜け部分を通して1階まで届く仕掛けになっている。文学部図書館には、閉館後でも自由に学習できるラーニングスクウェアや、だ円形のオーバルホール(座席は162席)がある。



ホールの機能も有する
文学部図書館



総ガラス張りの明るい
法学部図書館

沖縄と名古屋で日大フェア開催

今年で8年目を迎える「2004日大フェア」は那覇市が10月22、23両日、名古屋は11月12、13両日行われた。日本大学は全国津々浦々に卒業生を輩出しており、1300人の校友を有する沖縄県で初の開催を実現した。名古屋市は6年ぶりの開催だった。

那覇市(会場はハーバービューホテル)では、これまでにない趣向を凝らし、本学OB、OGらによる「日大寄席」、岩崎恭子さんやシンクロナイズドスイミングの鈴木給美子さんから五輪メダリストによる対談、特許相談会、進学相談会、校友懇談会が行われた。

名古屋市でのフェアはウェスティンナゴヤキャッスルを会場に開催された。初日の文化講演会は吉井敏尙文学部教授の「地震の話—東海地震はどうなる」がテーマ。新潟県中越地震の記憶が新しい時だけに市民の関心も高く、多くの人が熱心に耳を傾けた。特許相談会、片桐正大理工学部教授の市民講座「アンコール遺跡群のゆくえ」のほか、夕方からは企業・校友懇談会が和やかに開かれた。また、進学相談会は愛知県中小企業センターで2日間にわたって開かれ、受験生や父母らが訪れた。



アーティストが次々と登場した「日大寄席」

ホットな母校ニュースは「日本大学広報」「日本大学新聞」でどうぞ

広報部では、毎月15日付で機関紙「日本大学広報」(送料共年1,000円)を、季刊で「桜門春秋」(送料共年1,600円)をそれぞれ刊行しています。

また、学生記者が取材・編集する「日本大学新聞」(送料共年2,000円)も学生の話や日大スポーツを満載し毎月発行しています。

●購読ご希望の方は下記まで
広報部

TEL.03(5275)8132
FAX.03(5275)8321

日本大学新聞事務局
TEL.03(5275)8144
FAX.03(5275)8331

●ホームページも開設中

大学の情報は、ホームページでもご覧
になれます。

アドレスは <http://www.nihon-u.ac.jp>

●全国校友名刺交換会を開催

日本大学全国校友名刺交換会～参議院議員当選祝賀会・アテネオリンピック慰労会～が9月24日、ホテル海洋(東京都新宿区)で開かれた。日大人のきずなを深め、緊密な連携を図るとともに、参院選での本学関係当選者の祝賀とアテネ五輪参加者の慰労を兼ねた催しで、首都圏などの校友、瀬在幸安総長ら本学の役教職員ら合わせて約千人が出席した。

岡田正美大会実行委員長(校友会副会長)の開会の辞に続いて、大会会長の田中英壽校友会会長代行の挨拶、瀬在総長の祝辞に続き、参院選の当選者や現職の国会議員、アテネ五輪の選手・役員がステージに並んで紹介され、五輪選手一人一人に校友会、桜門スポーツ部会から報奨金が贈られた。

松井健治大会副会長の乾杯の発声で懇親会に入り、会場のあちこちで旧交を温める懇談の輪が出来た。芸術学部の学生による日本舞踊や教員の琴・尺八の演奏、応援リーダー部のチアリーディングの演技も披露され、会場は華やいだ空気に包まれた。



●校友子女入試行われる

日本大学が実施する平成17年度「校友子女入学試験」は、日本大学への入学を強く希望する校友子女のうち2親等内直系血族(子・孫)を対象とし、大学が新たに創設したもの。出願資格は校友子女の2親等内直系血族(子・孫)で大学入学資格を有する者だが、学部によってはこの他に要件を付すところもある。制度の特色は、従来の選抜方式によるものではなく、多角的な視点で選抜することにある。選抜方法は、①調査書・面接・小論文等、②学力検査・調査書・面接・小論文等に大別されるが、学部によっては模擬授業、適性検査や試験、実技試験等を課す場合もある。

上記の入学試験を実施した学部・短期大学部および校友子女確認書の証明を出した人数は下記のとおり(平成16年11月18日現在)。

- ①芸術学部→36名
- ②国際関係学部→1名
- ③工学部→9名
- ④医学部→44名
- ⑤歯学部→61名
- ⑥松戸歯学部→11名
- ⑦短期大学部(商経・食物栄養の各学科)→1名

なお、日本大学校友会では、入学後の特典として「特別優待生制度」を創設した。この制度は「校友子女入学試験」による入学者のうち、きわめて優秀な者に対して学部長の推薦により、「入学手続時の最小限納入金額」を全額奨学金として給付するもの。

新規公認桜門会(平成16年12月3日現在)

7月の役員総会以降に、校友会常任会で公認された桜門会は次のとおり。

- 不動産・建設桜門会
- 成田桜門会
- セーリング桜門会
- 土屋組桜門会

お知らせ・掲示板

このコーナーは皆さんからの手紙や電話でのご意見、ご質問を紹介します。

他にも写真、詩、短歌、エッセイなどの作品や、
本誌で紹介したお店を訪ねた感想なども
募集していますので、「桜縁」係までお寄せください。

日大人に対する各種セミナー、研究活動の情報をタイムリーに掲載して頂きたい。例えば、不動産業界における最新理論など、よろしくお願ひ致します。

(柴崎拓也・平成2年商学部商業学科／東京都葛飾区在住)

もうちょっと楽しい会報にした方がよいと思います。難しい話の上に、字が小さくて読みづらいです。もっとよくなれると思うので、書かせて頂きました。私のような、地方の人たち同士の交流の場もほしいです。

(村上裕一・平成11年法学部管理行政学科卒業／宮城県気仙沼市在住)

することがない時、大学へ行こう。仕事が忙しい時、大学へ行って協力を求められる場になってほしい。困った時、楽しい時、大学へ行けば、誰

かが真剣に対応してくれる、そんな優しい大学になってほしいです。

(宮原敏子・昭和51年文理学部通信教育課程卒業／兵庫県西宮市在住)

少子化加速、大学全入時代、大学サバイバル時代を早く認識し、入学生の確保の為に、卒業生子弟の入学への便宜を計ること。総合大学としての持ち味を生かすこと。大学経営の危機の際、本当に頼れるのはOBしかいない。親・子・孫と世代間にわたる日大ファンを増やし、大事にすること。学部ごと、学科ごとにNo.1でなくていいから、ONLY1を狙うユニークな、偏差値人間でない学生を入学させることを望む。

(川畑紀義・昭和40年歯学部歯学科卒業／福井県鯖江市在住)

○インフォメーション

◎本誌への情報提供、ご意見、お問い合わせは…
この会報は1人でも多くの校友の皆さんを紹介し、校友の皆さん同士のコミュニケーション(縁)を深めていただきたいと思います。お店やお宿を営んでいる校友に限らず、ユニークな先輩や後輩がいるとか、自分を紹介してほしいなど、自薦他薦を問いませんので、事務局までお知らせください。

◎住所・勤務先がお変わりになられたら…

住所、勤務先等に変更がございましたら、必ず事務局までお知らせください。

電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。

◎会員証を紛失されたら…

会員証を紛失された際は事務局までご連絡ください。再発行させていただきます。

◎新規会員を紹介したい…

新規会員をご紹介くださる方は、事務局までご連絡ください。資料を送付させていただきます。

1 封筒、ハガキで

〒102-8275

東京都千代田区九段南4-8-24

日本大学校友会本部事務局校友課「桜縁」係

2 電話、ファクシミリで

TEL. 03(5275)9300

FAX. 03(5275)8330

3 電子メールで

E-mail : koyu@adm.nihon-u.ac.jp

編集後記

広報委員会・今村忠雄

今回の特集は、農業に関連する諸問題をテーマに、実際、農業に従事する校友や農業問題に詳しい先生に話を伺いまとめてみました。経営に関する苦労話やエピソード、後継者問題など、いろいろな視点から農業について見直せたのではないかと思います。農獣医学部(現・生物資源科学部)の卒業生が多いですが、他学部出身で農業に従事している方も大勢いました。種類も、稲作や野菜だけでなく、果樹園や酪農、畜産など、いろいろな品目を扱う校友がいることも分かりました。こうした身近な校友の紹介を今後もしていきたいと思っておりますので、ぜひ情報をお寄せください。

桜縁 No.6/2005.1 発行 編集・発行 日本大学校友会

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24

TEL. 03(5275)9300 FAX. 03(5275)8330

広報委員会

委員長：今村忠雄 副委員長：猿渡光

委員：竹井哲也 中村克夫 渡邊和子 穂積修一 石井宏 紙本勲

萩原正芳 横須賀靖 齋藤直樹 大橋治彦 中島正博 呉屋正盛

鈴木彰一